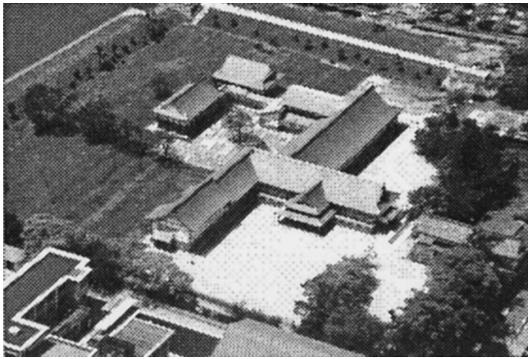


## 佐賀県立佐賀城本丸歴史館建設事業

受賞機関 佐賀県

### 事業の概要・目的

この本丸歴史館は、「幕末・維新期の佐賀」を検証し、県民にこの時代の歴史を分かりやすく伝え、新しい郷土の発展の源泉となるような施設を目指している。また、県民とともに活動し、21世紀の佐賀を担う人づくりの拠点施設となることを目指している。



全景

### 施設の概要

- 所在地：佐賀市城内（佐賀城本丸跡）
- 構造階数：木造平屋建て（一部2階建）
- 建築面積：2,499.51㎡
- 延床面積：2,449.74㎡  
（1階2,208.46㎡ 2階241.28㎡）  
「御座間・堪忍所（佐賀市重要文化財）  
移築約180㎡を含む。
- 建物の高さ：最高12.26m
- 工期：平成13年6月1日～平成16年3月30日
- 事業費：2,071百万円（展示工事を除く）

（外部仕上げ）

屋根：土居葺下地本瓦葺き

（一部棧瓦）

外壁：漆喰塗壁及び杉板張り

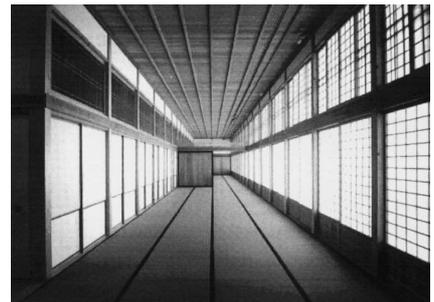
（内部仕上げ）

床：畳敷き

壁：漆喰塗壁



御玄関付近



北側廊下

### 事業の特徴

この本丸歴史館は、国内でも施工事例の少ない、伝統工法による大規模木造建築物である。石工事・木工事・屋根工事・左官工事などの伝統工法については、職人さんが全国的にも少ないため、佐賀県内はもとより、遠くは愛知県・京都府・滋賀県・奈良県等から、多くの方々にご協力いただいた。

また、現場で使用する各種の材料については、佐賀県産のものと周辺地域内のものをできるだけ利用している。

おわりに

全国各地に広い岩畳を意味する「千畳敷」という海岸がある。昨年夏オープンした「佐賀城本丸歴史館」には、実際に721枚の畳が敷かれている。外御書院では、一之間から四之間、廊下すべてが畳敷きの広い空間を体感できる。鍋島直正（10代藩主）が1838年に建設した本丸御殿を、当時のままに復元した大型の木造建物である。

その畳敷きの部屋が展示室となっており、幕末・維新期の日本をリードした佐賀の様子がよく分かる。大隈重信、江藤新平などいわゆる佐賀の七賢人が活躍した。「その時、日本は佐賀を見ていた。佐賀は、世界を見ていた。」という本丸歴史館のテーマがぴったりである。年末（12/29～31）を除き、元旦から毎日オープンしていますので（～夜20時まで）、仕事の後にも、お気軽にお立ち寄りください。